

我が国周辺水域資源評価等推進委託事業

吉岡拓也・中西達也・谷本剛・石川陽子・湯浅明彦・三好亮徳・
須原修・悦田明・松本一樹・藤岡保史・渋江文

本事業の目的は、国連海洋法条約の発効に伴い我が国周辺水域内の水産資源の有効利用及び管理を行うために必要な資料を収集し、資源の評価を行うことである。水産庁からの委託により、本県を含む共同実施機関が事業を実施した（代表機関は国立研究開発法人水産研究・教育機構）。以下に、平成29年度事業の内容と実施状況の概要を記す。

方法

資源調査

1. 魚種別漁法別漁獲状況

次の各漁協における魚種別漁法別漁獲量を集計した。

(1) 瀬戸内海

北灘：マダイ（小型定置網，小型底びき網）

鳴門町：マダイ（釣り）

徳島市：マダイ，ヒラメ（全て小型底びき網）

椿泊：マダイ（小型定置網，小型底びき網），ヒラメ（小型定置網，小型底びき網，刺網），トラフグ（延縄），サワラ（延縄）

橘町：トラフグ，サワラ（全て釣り，延縄）

(2) 太平洋

東由岐：マイワシ，カタクチイワシ，ウルメイワシ，マアジ，サバ類，ブリ，マダイ（全て小型定置網）

牟岐東：マダイ，マアジ，サバ類，ブリ（全て釣り）

牟岐町：マイワシ，カタクチイワシ，ウルメイワシ，マアジ，サバ類，ブリ，マダイ（全て小型定置網）

鞆浦：マイワシ，カタクチイワシ，ウルメイワシ，マアジ，サバ類，ブリ，マダイ（全て大型定置網）

宍喰：マイワシ，カタクチイワシ，ウルメイワシ，マアジ，サバ類，ブリ，マダイ（全て小型定置網）

2. 船びき網操業実態調査

船びき網14統（徳島市漁協1統，和田島漁協7統，橘町漁協1統，阿南漁協5統）の標本船日誌調査を実施し，シラスの漁獲量及び操業場所等を調べた。

3. 生物測定調査

(1) 体長測定調査

次の各漁協において対象魚種の体長を測定した。

和田島・阿南：カタクチイワシシラス，マシラス

椿泊・宍喰：マイワシ，カタクチイワシ，ウルメイワシ・マアジ・サバ類

(2) 魚体精密測定調査

体長測定調査の に記載した漁協及び魚種で，月1回，体長，体重，性別及び生殖腺重量を測定した。

4. 魚類卵稚仔量調査

イワシ類，アジ，サバ類等の卵稚仔量を把握するため，次の調査を毎月実施した（1月を除く）。

(1) 調査海区：播磨灘海区，紀伊水道海区，海部沿岸海区，海部沖合海区（海部沖合海区は11月及び2月に実施）

(2) 調査項目：卵稚仔

(3) 調査方法：改良型ノルパックネット（口径4cm×高さ180cm，オープニング0.335mm）の垂直曳き

(4) 調査点数：播磨灘海区2点，紀伊水道海区12点，海部沿岸海区12点，海部沖合海区3点

資源動向調査

タチウオ，ハモ及びクマエビについて，関係県と連携を図り，資源動向をモニタリングした。調査内容及び結果については，魚種別に別途記載した。

データの蓄積及び解析

得られた情報を電子情報に変換するとともに，我が国周辺水域漁業資源調査情報システム(FRESCO)により関係先へ電送してデータベース化した。これらの情報を元に資源評価及び漁海況予報について検討した。

結果

委託元の水産庁と共同実施機関代表者の国立研究開発法人水産研究・教育機構が平成29年度我が国周辺水域の漁業資源評価としてとりまとめており，そちらを参照されたい。